

# 青少年育成センターだより

第11号 平成29年1月



## 去年今年貫く棒の如きもの (高浜虚子)



(昨年の大晦日をこえて、今日から新しい年だ。わずか一日の違いなのに、まったく違う気持ちになる。だが、考えてみれば貫く一本の棒のようなものではないか。何が変わるというのだろうか。自分の志もこの棒のようにしっかりと貫いてゆきたいものだ)

力強さを感じる俳句ですね。私たちも今年一年間、志をしっかりと立て、信念を貫いた生活をしたいものです。

### 子どもの規範意識

「最近、子どもの規範意識が低くなった」という言葉をよく聞きます。果たしてそうでしょうか。

巡視中に、「自転車に2人乗りをしている者」「信号機が赤でも横断歩道を渡る者」「たばこを吸っている高校生」等、違反をしている子どもの姿を時に見ることもありますが、大方の子どもは、ルールを守った活動をしています。

「子どもたちの規範意識が低くなった」と言う前に、私たち大人自身の姿を振り返ってみましょう。「信号機が赤でも車を走らせる大人」「横断歩道で子どもが手を挙げて待っていても車を走らせる大人」「運転中にスマートフォンを操作している大人」等、交通違反をしている多くの大人の姿を見かけます。このような私たち大人の姿を子どもたちはどのように思っているのでしょうか。

学校で、子どもたちは「交通ルールを守りましょう」と教えられます。しかし、ルールを守っていない大人の姿を見て、子どもたちは交通ルールを守るようになるのでしょうか。社会のルールを守るようになるのでしょうか。皆さんは、どう思われますか。

私は、子どもの規範意識を向上させる一番の方法は、大人の良い姿を見せることだと思います。私たち大人がしっかりと社会のルールを守って生活している姿を見せることが子どもの規範意識を高めることになるのだと思います。まさに「**子どもは大人の鏡**」なのです。

先日、横断歩道で待っている中学生がいたので車を止めたところ、その生徒は横断後、こちらに向けてぺこりと会釈をしてくれました。その姿に心が洗われる思いがしました。まだまだ、日本には素晴らしい子どもがいることを感じ、嬉しく思いました。このような素直な気持ちをもつ子どもに育てることが私たち大人の責任ではないでしょうか。

「大人が変われば子どもが変わる、子どもが変われば未来が変わる」

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター (23-3013)